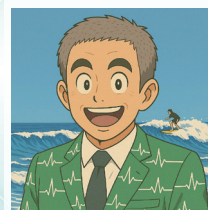


心電図 マスターアプリ 活用法!

「心電図マスターアプリ」の編著者



大河原治平

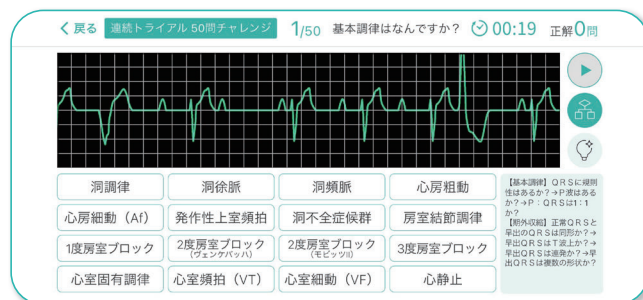
株式会社近代消防社
スーパーアドバイザー／研修講師
Support Book研究会 代表
日本臨床救急医学会 評議員
救急救命士
元埼玉西部消防局消防署長

〈「心電図マスターアプリ」の機能紹介記事〉2025年7月号P.48、8月号P.49参照

第4回 目指せ！ 心電図マスター！！〈最終回〉

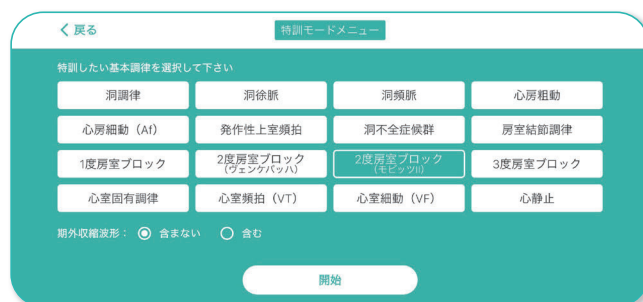
4-1 連続トライアル（図1）

連続トライアルは「実力テスト」です。Level1、Level2、Level3で培った判読レベルをチェックしてください。10問、30問、50問の連続トライアルです。基本調律でも期外収縮でも1回間違えると、そこで終了です。緊張感もお楽しみください。心電図を判読する力はLevel1～3で養われます。その力をチェックするのが連続トライアルです。その力をチェックするのが連続トライアルです。連続50問が心電図マスターアプリの頂点です。ぜひチャレンジして、クリアしてください。



4-2 特訓モード（図2）

特訓モードは、学習に行き詰まった時に威力を発揮します。例えば、洞頻脈と発作性上室頻拍の見分け、あるいは、2度房室ブロックのヴェンケバッハ型とモビッツⅡ型の見分けが難しいと感じた時、1種類ずつ、波形を連続して確認します。そうすることで、それぞれの定義が見えてきます。心電図マスターアプリには578の動く波形が収録されています。くれぐれも、形で覚えようとしないでください。学習のゴールが遠のきます。



4-3 学習記録（図3）

学習記録では、基本調律、期外収縮の正答率が確認できます。苦手を見極めて、特訓モードで攻略してください。連続トライアルの記録は「学習の達成感」そのものです。同僚に見せたりして自慢してください。



4-4 設定（出題方法の選択）（図4）

設定で出題方法が選択できます。出題方法①出題の少ない問題を優先、②正解率の低い問題を優先、③正解率が低い基本調律と期外収縮を優先、となっています。出題範囲を正解率（%）で絞ることもできます。お好みで設定してください。デフォルト（標準）は出題方法①です。

